

広島経済大学

# 地域経済研究所年報

第26号

(2023年度)

広島経済大学地域経済研究所

# 目 次

はしがき

I	研究活動	1
1	外部研究費助成事業	1
(1)	科学研究費助成一覧	1
(2)	海外出張報告	7
2	研究員消息	10
	中嶋 則夫「自由とは」	10
	尾方 剛「陸上競技長距離種目での経験に基づき各種様々なスポーツ社会活動実践」	11
II	研究所委任事業	13
	広島経済大学経済学会	13
(1)	『論集』の刊行	13
(2)	『磐石』の刊行	14
(3)	研究集会の開催	14
(4)	その他	15
III	産学官連携・域学連携	16
1	企業・行政などとの包括連携協定一覧	16
2	2023年度産学官連携・域学連携に関する活動状況一覧	16
IV	その他	17
1	委員会	17
2	業務日誌	18
3	地域経済研究所 収集雑誌・資料等受入リスト	20
4	既刊行物	23
(1)	広島経済大学研究双書	23
(2)	広島経済大学地域経済研究所報告書	24
(3)	Discussion Papers	25
(4)	モノグラフ	27
(5)	広島経済大学地域開発研究所研究報告	27
(6)	地域開発研究資料	27
(7)	資料目録	27



# は し が き

『地域経済研究所年報』（第26号）をお届けする運びとなりました。ご高覧いただければ幸いです。

地域経済研究所は、研究助成、調査研究成果の刊行、科学研究費助成事業や一般的な助成に関わる業務並びに産学官連携推進に関する業務に取り組んでおります。その他、広島経済大学経済学会の委任事業として『論集』の刊行、卒業記念誌『磐石』の刊行、教員の研究推進のための研究集会の開催などを担当しています。

2023年度の地域経済研究所の活動の一端を振り返ってみますと、まず、科学研究費の支援事業として、本学教員の科学研究費の申請や採択後の機関委任事務を行っております。研究代表者として新規採択課題及び継続課題16件、分担者としての新規採択課題及び継続課題10件に対する研究支援を行っております。

産学官連携推進事業は、本学が地元企業等と行う共同研究等の全学的な窓口としての業務を行っております。2023年度には、オタフクソース株式会社様と一般財団法人お好み焼アカデミー様との包括連携協定に基づき、2022年度のお好み焼き産業の経営実態調査に続き、マーケティング研究会を実施いたしました。2023年度は新たに、広島市安佐南区社会福祉協議会と包括連携協定を締結し、高齢者向けスマホ講座を実施するなど、産学連携の一層の推進に努めているところです。

広島経済大学経済学会の『論集』の刊行については、『経済研究論集』、『研究論集』いずれも第46巻第1号から3号が刊行されました。『経済研究論集』は、第46巻第2号を西脇 廣治教授、第3号を宜名真 勇教授の退任記念号として刊行しました。論文掲載件数も『経済研究論集』13件、『研究論集』10件が寄せられ、各号とも充実した論集を刊行することができました。

研究集会は、教員の研究推進のために相互の知見を広め、研鑽を積むことを目的に計3回開催することができました。委員の先生方はじめ関係各位のご尽力に感謝いたします。

地域経済研究所は、研究助成業務、産学官連携窓口業務等を通じて、地域経済発展のため一層努力する所存ですので、今後ともご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年4月

地域経済研究所長 中嶋 則夫



# I 研究活動

## 1 外部研究費助成事業

### (1) 科学研究費助成一覧

#### 【新規】

#### 基盤研究（B）

●研究代表者：細井 謙一（経営学部 経営学科・教授）

研究分担者：松川 佳洋（広島経済大学・経営学部 経営学科・教授）

坂田 隆文（中京大学・教授）

金丸 輝康（大阪学院大学・教授）

明神 実枝（福岡大学・教授）

研究課題名：社会統合概念を中核とした地域ビジネス・エコシステムの形成論理の研究

課題番号：23H00858 助成金：156万円

研究の概要：本研究の目的は、社会統合の概念を中核として、地域ビジネス・エコシステムの形成論理を、理論的かつ実証的に明らかにすることである。広島地域において、ソウルフードと言われるまでに普及したお好み焼産業を主なりサーチサイトとし、広島市から他の地域へと年度ごとに研究地域を拡大し、比較事例分析を行う。比較事例分析を通じて、お好み焼を食することを良しとする共通価値の認識が高まることによる消費者側の社会統合効果と、お好み焼を提供することを良しとする供給者側の社会統合効果とが、ビジネス・エコシステムの形成につながり、そのことがお好み焼を業として営むことの経済合理性を高めるといふ仮説的理論モデルを検証する。

キーワード：ビジネス・エコシス／社会統合／経済合理性／地場産業／お好み焼き

#### 基盤研究（C）

●研究代表者：前川 功一（名誉教授）

研究分担者：早川 和彦（広島大学・教授）

中西 正（北海道大学・助教）

塩路 悦朗（一橋大学・教授）

森田 裕史（東京工業大学・准教授）

研究課題名：周期の異なる時系列データに基づく経済モデル推定の理論と応用

課題番号：23K01342 助成金：182万円

研究の概要：経済時系列データには、種々の異なる周期を持つ系列が存在する。伝統的計量経済学的モデル分析では、データの周期を揃えて分析が行われてきたが、近年、異なる周期を持つデータを一つのモデルに組み込んだ周期混合データ分析（MIDAS）と呼ばれる分析方法の使用が増しつつある。この方法は形式的には多変量回帰分析に包摂されるといえるが、そこには経済時系列固有の問題が内包されているため、MIDASの利用に際しては、推定の偏り、効率などには注意すべき多くの問題がある。本研究課題は、これらの問題を理論的、実証的に検証し、信頼の高い、また利用しやすい推定法を提案し、それらの結果に基づく精度の高い実証分析を提示する。

キーワード：周期混合時系列データ／動学的パネルデータ／多国間経済波及効果／疑似最尤推定法／モンテカルロ実験

●研究代表者：前馬 優策（教養教育部・准教授）

研究課題名：新たな時代の「効果のある学校」モデルの探索

課題番号：23K02202 助成金：52万円

研究の概要：「教育的に不利だとされる階層的背景をもった子どもにも、一定の学力を保障している学校」は「効果のある学校」と呼ばれている。これまで「効果のある学校」論に関する研究が蓄積されてきたものの、コロナ禍・「働き方改革」といった現代的状況にいかに向き合うかという問いに対する答えはまだ出ていない。

そこで本研究では、「効果のある学校」を志向する学校において参与観察や教職員等に対するインタビューを行い、調査期間前後においてそれらの学校文化はいかに変容する／したのかを明らかにし、新たな「効果のある学校」モデルを提示する。

キーワード：効果のある学校／働き方改革／アフターコロナ／学校文化／学力保障

●研究代表者：渡辺 泰弘（経営学部 スポーツ経営学科・准教授）

研究課題名：スポーツ施設を通じた利用者と施設管理運営者によるコミュニティ創出に関する研究

課題番号：23K10705 助成金：65万円

研究の概要：スポーツ施設を価値創造の「場」と捉え、施設利用者を単にサービスを消費する存在としてではなく、利用者の安心・安全やサービス、新しいアイデアの創出など、価値創造プロセスのパートナーとして捉える。そして、利用者と維持管理・運営側双方の視点も考慮した価値共創によるコミュニティ創出に向けた施設の役割を検討する。現場レベルでは、地域住民への安全・安心の保障が担保され、利用の増加、災害時の避難所としての役割、新たなコミュニティの創出などが期待できる。政策レベルでは、政策立案時におけるスポーツ施設を中心としたまちづくりの可能性を安心・安全の視点から施策の立案も可能となる。

キーワード：スポーツ施設／コミュニティ創出／価値共創／安心・安全対策／サービス

【継続】

基盤研究（C）

●研究代表者：阿部 純（メディアビジネス学部 メディアビジネス学科・准教授）

研究課題名：2000年以降の「良い暮らし」の思想と実践に関するメディア文化研究

課題番号：22K01920 助成金：52万円

研究の概要：本研究では、「良い暮らし」の倫理的規範を伝えるメディアとして、2000年以降に創刊されたライフスタイル雑誌や自主流通冊子に着目する。東日本大震災以降、自分（たち）の暮らしの「当たり前」を見直すことを目的とした自主流通冊子が全国各地で発行され、SDGsがメディアを賑わすようになった2015年からは、「暮らし」を再考する気運が地球規模の環境問題と接続し、衣食住に直接関わるような実践が各地で行われるようになった。これらの倫理的規範が、どのような社会的要因の元に駆動してきたのかについて、ライフスタイル雑誌を中心とした言説分析や自主流通冊子制作者へのインタビューなどの質的調査を通して検討する。

キーワード：ライフスタイル／倫理的消費／DIY／雑誌メディア／地域文化誌

●研究代表者：迫田 奈美子（教養教育部・准教授）

研究分担者：松宮 奈賀子（広島大学・准教授）

森田 愛子（広島大学・教授）

---

深谷 達史（広島大学・准教授）

研究課題名：大学生の英語学習を対象とした認知カウンセリングに基づくピア・チュータリング実践

課題番号：22K00756 助成金：65万円

研究の概要：多様化する大学生の英語学習ニーズへの対応として、学習者同士の学習を促すピア・チュータリングの試みが注目されている。本研究では、認知心理学の理論に基づく学習相談である認知カウンセリングを参考に、英語ピア・チュータリング実践を展開し、参加者の学習意欲・学習方略・英語力における効果を検証する。研究対象者は、リメディアル教育を必要とするチューティと、他者の学びを支援する学生チューターである。認知心理学的な視点から学習者のつまずきを診断し、自律を支援する活動を通して、主体的・対話的で深い学びの促進が期待される。

キーワード：ピア・チュータリング／認知カウンセリング／学習方略／ニーズ分析／外国語（英語）学習方略

●研究代表者：岡安 功（経営学部 スポーツ経営学科・教授）

研究課題名：地域でのスポーツ参加と多文化共生社会の形成に関する実証研究

課題番号：21K11353 助成金：26万円

研究の概要：本研究は、外国出身の日本国在住者（以下：在留外国人）の地域でのスポーツを通じての多文化共生社会の形成の現状と課題を明らかにすることを目的にする。特に、わが国の在留外国人が約300万人に近づきグローバル化が待ったなしの中、在留外国人のスポーツ参加の促進要因等を質的、量的調査を通じて明らかにする。また、スポーツ参加がソーシャルキャピタル（社会関係資本）の醸成に与える影響の有無を検証し、今後の地域スポーツ政策を検討する。

キーワード：スポーツ参加／阻害要因／ソーシャルキャピタル／多文化共生／在留外国人／地域スポーツ

●研究代表者：高石 哲弥（教養教育部・教授）

研究課題名：暗号資産価格における時系列特性の時間変動の研究及びリスク計量化への応用

課題番号：21K01435 助成金：117万円

研究の概要：本研究では、最近新しく誕生してきた暗号資産市場の性質を明らかにすることを目的としている。その為に、ハースト指数、マルチフラクタル性、べき指数やボラティリティ非対称性の時間変動などについて調べ、既存の株式市場等と違いがあるかどうかを明らかにする。また、収益率のRecurrence Interval（ある閾値よりも大きな収益率が出現する時間間隔）を利用したリスク計量化も行い、リスクマネジメントへの応用を試みる。

キーワード：暗号資産／バリュアットリスク／リスク指標／時系列解析／リスク計量化

●研究代表者：平下 義記（経済学部 経済学科・准教授）

研究課題名：近代法体系形成期における地域資産の運営実態—福山義倉を事例として—

課題番号：21K00862 助成金：52万円

研究の概要：近世日本では藩財政・地域有力者などが共有する地域資産が地域社会の安定を支えていた。明治政府の導入した近代法体系は資産共有慣行を否定したため、地域資産は、政府没収による消滅、町村単位への分割、財団法人化による所有権の単一化、など多様な帰結を見せた。本研究は、所有権の単一化を実現した事例として福山義倉を位置付け、廃藩置県から民法施行までの近代法体系形成期におけるその運営実態を解明する。そして、近代法



---

体系への包摂が、地域資産が永続して地域社会への貢献を実現する上でのキーであったと展望する。

キーワード：近代法体系／民法／商法／福山義倉／義倉／地域資産／所有権／財団法人

●研究代表者：山根 智沙子（経済学部 経済学科・教授）

研究分担者：筒井 義郎（京都文教大学・教授）

研究課題名：出生体重が人生に与える影響：双子データの構築

課題番号：21K01534 助成金：65万円

研究の概要：低出生体重が、成人後の健康状態に影響を及ぼすことは医学分野において広く知られているが、健康のみならず、学歴、結婚、所得、幸福度といった人生の質にも大きな影響を与える可能性がある。そこで、本研究は、第1に、日本において双子データを構築し、出生体重そのものが、その後の人生に影響し続けるのか否かを検証する。第2に、先進国のなかで日本の「低出生体重児」の占める割合が突出して高い点に着目し、低出生体重児の発生原因を明らかにする。これら両方の結果から得られた知見をもとに、低出生体重をハブとして、世代間で不平等・格差が引き継がれている可能性について考察する。

キーワード：低出生体重／BMI／やせ型／女性の社会進出／出生体重／アンケート調査／双子研究／パネルデータ／有病率リスク／双子データ

●研究代表者：宮岡 弥生（教養教育部・教授）

研究分担者：時本 真吾（目白大学・教授）

時本 楠緒子（尚美学園大学・非常勤講師）

研究課題名：学習場面における人間の存在感の効果

課題番号：18K00857 助成金：0円（事業期間延長）

研究の目的：本研究では費用対効果の高い遠隔授業を目指し、視線不一致型の遠隔授業に焦点を当てる。視線不一致型の遠隔授業の場合、学習者の集中力の維持がしばしば課題として挙げられる。教師と学習者の間で双方向のコミュニケーションがとれないこの種の授業においては、学習者に対し如何にして緊張感を与えるかが教育効果を上げるうえでポイントとなる。この緊張感を創出する要素として、本研究では人間の存在感に着目し、反応時間と正答率および脳波データを採取する実験を行い、適度な緊張感を遠隔授業の学習者に与える方法について検証する。本研究は、技術的に発達の一途を辿る遠隔授業の学習環境整備を、資金面という現実的な視点から捉えなおすものである。本研究によって安価な環境整備で効果的な遠隔授業を行える方法が明らかになれば、その成果は教育現場全体に貢献するだけでなく、テレビ会議システムを導入している企業への波及効果も期待できるであろう。

キーワード：オンライン授業／人間の存在感／eラーニング／遠隔授業／e-ラーニング

●研究代表者：田中 章司郎（メディアビジネス学部 ビジネス情報学科・教授）

研究分担者：西井 龍映（長崎大学・教授）

研究課題名：時空間統計モデルによる世界森林面積減少がもたらす社会経済的影響

課題番号：17K00064 助成金：0円（事業期間延長）

研究の目的：本研究は森林状態変化がもたらす社会経済的影響（例えば住民の収入）を、森林データ（人工衛星データ）、人口メッシュデータ、地形データなど同一メッシュに統合した説明変数に基づく時空間統計モデルを求める。森林減少とその地域の住民の収入との関係、人工

---

衛星データによる植生活性度（NDVI）と住民の健康状態との関係など、森林被害の著しいインドネシア、アマゾン、アフリカ・サヘル地域などの環境にモデルを適用して検証し、将来予測を行う。これにより社会的な要請に応え、また探求で使用した汎用ソースプログラムを共同開発環境 GitHub に公開して、第三者によるさらなる探求に資する。

キーワード：時空間統計モデル／変数選択／空間パネルデータ分析／空間 Durbin 誤差モデル／空間ダービン誤差モデル／隣接行列／疑似最尤法／統合データセット／Spatial Error Durbin モデル／空間隣接行列／時空間モデル／環境データ解析／環境の統計的モデル

## 若手研究

●研究代表者：合田 優子（教養教育部・講師）

研究課題名：根源的モダリティの研究—可能世界意味論と関連性理論の観点から—

課題番号：22K13141 助成金：39万円

研究の概要：本研究では英語の根源的モダリティの助動詞と準助動詞の比較を通して、可能世界を用いた真理条件に基づく可能世界意味論と、語用論である関連性理論の融合に取り組む。考察対象は、助動詞 must と should、準助動詞 have to と ought to である。モダリティは多義的である。モダリティ分析には様々な立場があるが、特に単義性分析ではコンテキストの分析が不透明であるという課題がある。本研究では、可能世界意味論と関連性理論を整合し、シノニムの考察を行い、それぞれのモダリティの意味形式を提案する。

キーワード：可能世界意味論／英語の助動詞／モダリティ／関連性理論

●研究代表者：幸田 圭一郎（経営学部 経営学科・准教授）

研究課題名：ベンチャー投資における「種類株式」メカニズムに関する実証分析

課題番号：21K13379 助成金：78万円

研究の概要：本研究は、ベンチャー企業による「種類株式」の発行が、ベンチャーキャピタル（VC）など投資家に対する投資誘因となるのか、実証的に明らかにするものである。近年、ベンチャー投資においては、議決権や優先的な配当権などのさまざまな権利が付与された「種類株式」が発行されるようになってきている。そこで、本研究により、ベンチャー企業が発行した「種類株式」の発行と VC などの投資家の投資との関係を明らかにするため、各種「種類株式」の権利を分類することにより、未上場期のベンチャー投資の財務データを活用した実証分析を行う。

キーワード：ベンチャー企業／ベンチャーキャピタル／株式

●研究代表者：石野 亜耶（メディアビジネス学部 ビジネス情報学科・准教授）

研究課題名：ソーシャルメディアを利用した旅行計画者の行動のモデル化

課題番号：20K20091 助成金：0円（事業期間延長）

研究の概要：本研究の目的は、ソーシャルメディアを利用して旅行計画者の行動をモデル化することである。具体的には以下の3つの課題に取り組み、統合することで上記の目的を達成する。

【課題1】旅行計画期間と旅行期間を明らかにするために、旅行計画者のツイートに対し、旅行を計画中のツイートと、旅行中のツイートを自動で判定する手法を開発する。

【課題2】具体的な計画行動を明らかにするために、旅行を計画中のツイートから、計画行動を抽出する手法を開発する。

【課題3】大量のツイートに対し、課題1と課題2で開発した手法や、ユーザの属性を推

---

定する手法を適用し、ユーザの属性に応じた旅行計画者の行動をモデル化する。  
キーワード：旅行計画者／計画行動／訪問国／観光スポット／ソーシャルメディア／Twitter

●研究代表者：角 裕太（経営学部 経営学科・准教授）

研究課題名：植民地統治と会計—南洋群島における燐鉱事業管理に焦点を当てて—

課題番号：19K13874 助成金：0円（事業期間延長）

研究の概要：本研究は、植民地（委任統治領）と会計というテーマのもと、とくに南洋群島における会計の役割・機能を明らかにすることを目的とする。中でも、南洋群島統治にあたって重要な役割を果たした南洋拓殖株式会社を対象に、燐鉱事業における原価管理の実態とそれが植民地統治において果たしていた役割・機能を明らかにする。本研究を進めるにあたっては、国立公文書館つくば分館に所蔵されている決算書類を含む一次史料を主に利用する。

キーワード：会計／南洋拓殖／南洋興発／南洋庁／臨時南洋群島防備隊／原価管理／燐鉱・製糖事業／決算・決算報告／燐鉱事業／製糖事業／原価計算／南洋拓殖株式会社／南洋群島

**【分担金・新規】**

基盤研究（B）

●研究分担者：角 裕太（経営学部 経営学科・准教授）

研究課題名：自然災害等外生要因が企業会計行動に及ぼす影響に関する計量史研究

課題番号：23H00869 助成金：39万円 研究代表者：野口 昌良（東京都立大学）

基盤研究（C）

●研究分担者：前馬 優策（教養教育部・准教授）

研究課題名：同和教育とは何だったのか—貧困や差別に抗する教師の肖像

課題番号：23K02213 助成金：39万円 研究代表者：林 崙 和彦（福岡教育大学）

●研究分担者：山根 智沙子（経済学部 経済学科・教授）

研究課題名：社会的影響に基づく選択に着目した消費者の金融行動分析

課題番号：23K01390 助成金：13万円 研究代表者：本西 泰三（関西大学）

**【分担金・継続】**

基盤研究（B）

●研究分担者：石野 亜耶（メディアビジネス学部 ビジネス情報学科・准教授）

研究課題名：AIによるESG情報分析と評価モデルに関する総合的研究

課題番号：22H00897 助成金：116万円 研究代表者：中尾 悠利子（関西大学）

●研究分担者：坂水 貴司（教養教育部・助教）

研究課題名：資料横断的な漢字音・漢語音データベースの拡充と運用に向けた基礎的研究

課題番号：22H00665 助成金：614,900円 研究代表者：加藤 大鶴（跡見学園女子大学）

●研究分担者：宮岡 弥生（教養教育部・教授）

研究課題名：間接的発話を材料とした言語コミュニケーションにおける意図理解メカニズムの研究

課題番号：21H00525 助成金：142,227円 研究代表者：時本 真吾（目白大学）

●研究分担者：山本 貴裕（教養教育部・教授）

研究課題名：抗争と粛清のアメリカ—19世紀北米ポピュリズムの起源をめぐる史的考察

課題番号：20H01335 助成金：42.6万円 研究代表者：中野 博文（北九州市立大学）

●研究分担者：宮畑 加奈子（教養教育部・教授）

研究課題名：中国の権威主義体制下における法の役割と限界についての比較研究

課題番号：19H01407 助成金：0円（事業期間延長）研究代表者：鈴木 賢（明治大学）

基盤研究（C）

●研究分担者：幸田 圭一朗（経営学部 経営学科・准教授）

研究課題名：「財・サービス市場における企業の競争力」と「財務政策」との関係に関する研究

課題番号：21K01690 助成金：13万円 研究代表者：三谷 英貴（立命館大学）

●研究分担者：阿部 純（メディアビジネス学部 メディアビジネス学科・准教授）

研究課題名：地域を語り拓くメディアコミュニケーション・エージェントの研究

課題番号：20K12555 助成金：0円（事業期間延長）研究代表者：土屋 祐子（桃山学院大学）

(2) 海外出張報告

## アメリカのスーパーとドラッグストアと不動産屋

教養教育部 教授 山本 貴裕

研究課題名：抗争と粛清のアメリカ—19世紀北米ポピュリズムの起源をめぐる史的考察  
課題番号：20H01335 研究代表者：中野 博文（北九州市立大学）

私は2月6日～2月12日にかけて5泊7日の強行スケジュールでアメリカ合衆国ペンシルベニア州のフィラデルフィアまで行ってきた。目的は、この2年あまり私が取り組んでいる研究テーマ、「1830年代のペンシルベニア州における教会と議会での憲法と政府をめぐる論争」に関連した史料集めであった。この研究テーマは、北九州市立大学の中野博文先生を中心とする科研グループの研究テーマ「抗争と粛清のアメリカ—19世紀北米ポピュリズムの起源をめぐる史的考察」の一部をなしている。

私自身はこの問題に対して、スコットランド系アイルランド人の「長老派」の伝統に根ざす「人民主権（popular sovereignty）」の観点からアプローチしている。長老派の宗教的伝統は、スイスのカルヴァンのもとで学んだジョン・ノックス（1510年～1572年）がカルヴァンの教えをスコットランドに持ち帰ったときからはじまる。カルヴァン派といえば「予定説」が有名であるが、実はカルヴァン派の神学の最大の特徴は「神の主権」である。この世はす

べて神の支配下にある→人間には何もできない→救われる運命の者はどうやっても救われ、救われない運命の者はどうやっても救われない。こうして「神の主権」は「予定説」と結びつく。「神の主権」は過激な思想だ。この思想によると、神の前ではすべてが相対化される。国王も例外ではない。実際、スコットランド人はこの思想により彼らを支配しようとするイングランドの国王の権力や、スコットランドのカトリックの女王、メアリーの権力を相対化し、「人民の代表」＝「長老」を基礎とするボトムアップの統治形態を築いていく。それがのちに、イングランドの政策によって北アイルランドに移植したスコットランド人、すなわちスコットランド系アイルランド人に受け継がれ、さらには、彼らの多くが現在のアメリカ合衆国の中部（ペンシルベニア州など）に移住し、その後、アパラチア山脈沿いに拡散したため、アメリカの地に長老主義に培われた「人民主権」の考え方が広がり、アメリカ人によるイングランドの支配に対する反乱、すなわち「アメ

リカ革命」に大きな貢献をすることになる。

私の研究テーマはこうした歴史的背景を踏まえて設定したのだが、専門的な話はこの辺でやめて、ここから先は今回の出張での私のアメリカ体験について書いてみたい。この度はこの科研グループからまとまった科研費をいただき、それに広島経済大学からいただいた研究費を足して、なんとか5泊7日の旅程を組むことができた。なぜ「5泊7日」なのか。航空運賃と宿泊料金の高騰と円安（1ドル＝150円）の影響で、宿泊数をこれ以上増やせなかったからである。このような状況から今回のアメリカ行きは節約の旅となった。

まず、食料はほぼすべてスーパーマーケットで調達した。私はアメリカのスーパーが大好きだ。初日にホテルにチェックインしたらすぐにスーパーを探し出して、食料の調達に行った。フィラデルフィアの街中にある Giant Heirloom Market という名のスーパーである。私はアメリカの堅いポテトチップスが大好きだ。迷わず Cape Cod のポテトチップスをカートに入れ、その他にもビールとピーナッツ、Ben & Jerry's のアイスクリーム、リーセス（チョコレート+ピーナッツバター）などを買った（上下2枚の写真のうち上の方）。これだけで幸せな気分



になる。だが、ホテルに帰ってアイスクリームを食べようとしたらスプーンがないことに気づいた。そこで、恥ずかしいがホテルのフロントに行き、「I bought this Ben & Jerry's ice cream. And I tried to eat it. And then I realized that I didn't have a spoon. So, I was wondering if you had a spoon I could use.」と説明をした。日本では食べられない Ben & Jerry's が買えたことの喜びと、買えたけどスプーンがなくて食べられないフラストレーションが相まって、必要以上に詳しい説明になった。フロントの黒人の女性は、最初は真顔だった（アメリカの店員の多くは日本人と違い、愛想笑いをしない）が、私の説明を半分聞いたところでやりと笑い、フロントの奥に行き、スプーンを持ってきてくれた。英語圏では（日本でも？）自分から質問したら、必ずと言っていいほど結果が返ってくる。19歳の時、初めて一人で海外旅行した時と同じ緊張感と充実感を味わえた。

私はアメリカのドラッグストアも好きだ。翌日、Google マップで CVS（以前は Longs Drugs と呼ばれていた）を見つけ行ってみた。ここでは、子どもに買って来てくれと頼まれていたアメリカのお菓子を見つけ、山ほど買った（下の方の写真はその「一部」）。前日のスーパーは無人数レジだったが、ここにはレジ係の人がいた。アメリカのレジ係の人はお客さんとよく話す。私の番になってレジに行くと、早速、こんなにたくさんお菓子を買ってどうするんだと尋ねられた。そこで、子どもにお土産を頼まれたと答えたら、どこから来たのかと尋ねられ、「日本」と答えると、レジの人は喜んで「自分は日本のアニメが好きで、日本にはいつか行ってみたい・・・」と話しはじめた。レジの人は、人がよさそうな白人の男性で、少しオタクっぽい人だった。オタク文化は万国共通で心地よい。それにしても、アメリカのレジでは、レジ係の人もお客さんもゆっくりしていて、日本人みたいにあくせくしていない。いくら人が並んでいても信じられないぐらいゆっくりのペースで事が進んで行く。誰もいららしていない。帰国してから、ペンシルベニア州出身の本学のタンコシッチ先生にこのことを言ったら、アメリカ人同士のこうしたコミュニケーションが懐かしい、日本では他人とのこうしたかわりは味わえないと言っていた。たしかにそうだ。

帰国の前日には少し高級なスーパー、Whole Foodsに行った。テイクアウトのランチを買って、近くの公園で食べた。子どもや飼い犬がたくさんいる公園だった。そこでテイクアウトのランチを食べる私は、どう見ても不審者っぽかった。さっさと食べ終わると、駅に向かった。最終日に泊まるホテルは空港の近くで、フィラデルフィアの町から電車で30分程度のところにあった。実は、予約の際、チェックインの日を間違えてしまい、予定より1日早く（つまり、帰国2日前から）、このホテルに泊まることになってしまった（格安料金のためキャンセル不可）。帰国前日は、この空港近くのホテルから無料リムジンで空港まで乗せてもらい、空港から電車に乗って、フィラデルフィアの町まで戻り、夕方、町から電車で空港まで戻り、空港から無料リムジンでホテルに帰るというあわただしさだった。



でも、そんな中でもう一つ出会いがあった。公園でランチを食べてから駅に向かう途中で不動産のshowingのサインを見つけた。一度は「いや自分は外国人だし、お金ないし、不動産見てもしょうがない」という自分のなかのネガティブな声に流され、そのサインを見て見ぬふりをして通り過ぎようとした。でも、本当は見てみたいけど、恥ずかしいから言い訳して逃げている自分に気づき、来た道に戻り、展示会をしているアパートまでサイン頼りに行ってみた。Whole Foodsの近く、つまり治安のよさそうな地区にある、つつまじやかな3DKぐらいの物件だった（左下の2つの写真はその外観とリビングの様子）。このアパートを見せてくれた不動産業者の人には「いまりサーチでフィラデルフィアに来てるんだけど、いずれはここに住むことも考えている」と半分本気（半分妄想）で言うと、喜んでアパートの隅々まで見せてくれた。値段を見ると、50万ドル（7,500万円！）だった。当面買えそうにないが、将来的には何が起こるかかわからない。いまだに時々、この不動産屋からメールが来る。そのたびに私は物件をチェックして、そこに住んでいる未来の自分をイメージしている。この原稿を書くために、不動産屋さんからメールで送られてきた物件の情報をチェックしていると、またメールが来て、“Hi Takahiro, I'm glad you were able to spend a bit of time on my site again. It looks like you are doing a few different home searches.”と誘われた。想像が膨らむ。

ところで、ここまで読まれた方は、「研究はどうなったのか」と思われているかもしれない。ペンシルベニア州歴史協会とアメリカ長老派歴史協会では時差ボケからくる眠気と闘いながら（スーパーでは眠くならなかったが）、連日、一次史料の収集を行った。これをもとに論文を書く予定だ。続きはその時に・・・

## 2 研究員消息

### 自由とは

経済学部 経済学科 教授 中嶋 則夫

「われわれは、自由を何にも妨げられずに、したいことをすることだと考えがちだが、カントの考えは違う<sup>1</sup>」。「カントの考える自由な行動とは、(他律的な行動ではなく) 自律的に行動すること (で) …、自然の命令や社会的な因習ではなく、自分が決めた法則に従って行動することである<sup>2</sup>」。

この「自分が決めた法則」とは、自分の外に既にある生理的欲求や欲望などに従ったものではなく、「万人に当てはめても矛盾が生じないような原則<sup>3</sup>」であり、「個人的な目的を超えて、すべての人間を理性的な存在として拘束している法則<sup>4</sup>」であるという。サンデル (2010) は、嘘をついて何かを手に入れようとするのが万人にとって問題である理由に、「みんなが嘘をつくなら誰も相手の言葉を信用できなくなり、社会はすさむ<sup>5</sup>」からであると、帰結を問題としがちだが、これより優先して考慮すべき嘘の道徳的誤りを、次のように紹介している。

「嘘の約束が道徳的に誤りなのは、…社会の信頼を失うからではなく…、他者の要求や欲望よりも、自分の要求と欲望…を優先しているからだ。」(サンデル, 2010, pp.158)

以上のように、カントの考える自由の概念は、行動の結果がわれわれの評価しない帰結になることもあるものの、それよりも行動の動機を重視する。他方で、われわれは、感性的な生き物でもあり「われわれがつねに理性的に行動できるとか、自律的に選択できると言っているわけではない。そうできるときもあれば、できないときもある<sup>6</sup>」としている。サンデル (2010) は、一般的に考えられている自由とカントの考える自由との違いを示すために、アイスクリームを注文しようとしている例を紹介している。自分の好みに合った味を見付けようとすることは、自分が選んだものではなく<sup>7</sup>、自分の外側にあるものの下した決定に従った結果であるという。これは、重力の法則に支配され落ちていくビリヤードの球と同じことで<sup>8</sup>自由とは呼べないという。

以上から、われわれは、理性により特徴付けられる自分と自分以外からの指令で行動していることが分かる。

カイヨワ (2013) のいう競争の遊びであるスポーツにも、カントの考える自由とそうではない状況に直面する場面が存在する。カイヨワ (2013) は「遊戯者がそれに熱中するのは、自発的に、まったく自分の意志によってであり、快樂のためにである<sup>9</sup>」と述べている。これは、自分の外側に既にあるものが下した決定に従ったわれわれの行動である。ここで「自分の意志によって」行っているとする点は、カントの考える自由ではないことは、これまでの議論から見取れる。他方、「規則は、万人によって自発的に守られ、何人をも依怙ひいきしない、そういう自律的純粋社会のイメージを、遊びはたえず与え続けている<sup>10</sup>」という。ここで、規則が「万人によって自発的に守られ」る点は、カントの考える自由の実践と見なせる。このように、スポーツには、人間が自分の外に既にある生理的欲求や欲望に従う要素と同時に、自律的に規則を作りそれに従うという要素が備わっている。「すべての人に平等に備わっている理性的な能力への尊敬が…普遍的人権主義に役買っている<sup>11</sup>」ことを考慮すれば、理性の一端に触れることのできるスポーツは、多くの人々にとって価値あるものと言える。

過去に、ある方から「ならぬ堪忍するが堪忍」との言葉をいただいたことがある。カントの考える自由を表している言葉であろう。何が痛に障ったのか理由は定かではないが、その方に無視され続けたことを思い出す。カントの考える自由の実践の難しさを示す出来事である。

#### 注

- 1 サンデル, M (2010) 『これから“正義”の話しよう 今を生き延びるための哲学』早川書房 p.142
- 2 前掲書 p.143
- 3 前掲書 p.157
- 4 前掲書 pp.156-157
- 5 前掲書 p.158
- 6 前掲書 p.141
- 7 前掲書 p.142

- 8 前掲書 pp.142-143  
 9 ロジェ・カイヨワ（多田道太郎・塚崎幹夫訳）  
 (2013)『遊びと人間』講談社 p.34

- 10 前掲書 p.23  
 11 サンドル，M（2010）『これから“正義”の話をしよう 今を生き延びるための哲学』早川書房 p.161

## 陸上競技長距離種目での経験に基づき 各種様々なスポーツ社会活動実践

経営学部 スポーツ経営学科 教授 尾方 剛

陸上競技の長距離種目とはいかに我慢や辛抱をレース終盤まで継続できるかが勝敗の明暗を分ける競技で、これを通して様々な困難にも立ち向かい、最後まで諦めず自身でやり抜くことを学ぶことができる。この我慢や辛抱をレース終盤まで継続できるかという、肉体の限界を超えるために必要な物質（いわゆる「やる気ホルモン」）を東京医科大学教授岩根久夫氏が発見し、そのことを、永井（2013）は紹介している。それが、ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）であり、その分泌量が肉体の限界を超えるカギとなる。この物質は、合理的な手段に納得して物事に意欲的に取り組むことで、分泌が促進されるという<sup>1</sup>。このように陸上競技で経験したことと研究活動が結びつきその成果を、社会に還元する活動は重要と思い、精力的に行っている。活動は、主に、次世代育成を通じたスポーツ推進活動と見る楽しみ方を伝える活動を通じたスポーツ推進活動である。

前者で接する子供たちには、走る楽しみを実感できるような指導を心掛け、年代を追うごとにより速く走れるように、持っている能力を十分に引き出す指導を行っている。その際、この科学的知見の観点から、やる気を引き出すために、合理的で納得できる手段を提示している。これにより、物事に意欲的に取り組み、自らの限界にチャレンジする機会を提供できる。他方で、そのことが、けがにつながる可能性を高めるため、けがにつながる境界がどこにあるかを、自らの経験と、スポーツ科学研究の知見を活かし指導することで、けがをせず、境界を拡大し成長できる機会の提供を心掛けている。

### 注

- 1 永井洋一（2013）『少年スポーツ ダメな大人が子どもをつぶす!』朝日新聞出版 pp.102-103

以下は、2023年度の指導に関する取り組みである。

2023年5月	月刊陸上競技	月刊陸上競技 トレーニング講座 上級編 中長距離種目を1年間連載
2023年7月	株式会社広島ホームテレビ	勝ちグセ キッズスポーツフェスタ
2024年2月	広島広域都市圏協議会	広島広域都市圏ふるさとのプロとの交流 ～トップアスリートから学ぶ走り方教室～
2024年2月	4years.	M 高史の陸上まるかじり「出雲駅伝出場つかんだ広島経済大学 中距離にも力入れ、4大会ぶり伊勢路をめざします」
2024年3月	一般社団法人大学スポーツ協会	『UNIVAS AWARDS 2023-24』入賞 マン・オブ・ザ・イヤー 東 秀太
2024年3月	北広島町役場まちづくり推進課スポーツ推進係	北広島町森と共に暮らすフォーラム ～町有林×クロカン～

以下は、スポーツに取り組む環境整備に関する取り組みである。

2023年12月	広島県スポーツ推進審議会	令和5年度第4回広島県スポーツ推進審議会
----------	--------------	----------------------

また、見る楽しみに関しては、多様な視点で以下のような取り組みを行った。

2023年8月 ～2024年3月	株式会社報知新聞社	世界陸上ブダベスト大会 男子マラソン総評 2023年8月28日9面、 マラソングランドチャンピオンシップ 男子マラソン総評 2023年10月 16日7面、東京マラソン 男子マラソン総評 2024年3月4日7面
---------------------	-----------	--



2023年10月	株式会社 TBS ラジオ	TBS ラジオ出演 マラソングランドチャンピオンシップ パリ2024オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会
	株式会社産経新聞社	箱根駅伝 高い壁 2023年10月24日 朝刊16面
2023年11月	株式会社中国放送	RCC テレビ出演 第62回中国実業団対抗駅伝競走大会
2023年11月	株式会社中国新聞社	第67回中国四国学生駅伝 2023年11月26日 21面 (岩柳・周南) 第67回中国四国学生駅伝 2023年11月27日 16、21面
2023年12月 ～2024年1月	NHK 広島放送局	ラジオ出演 「ひろしま コイらじ」 第29回全国男子駅伝関連イベント「Run ナビ!ひろしま男子駅伝」 「ひろしま男子駅伝レース直前スペシャルトーク」
2023年12月 ～2024年1月	日本放送協会	NHK テレビ出演 男子第74回全国高校駅伝、第29回都道府県対抗男子 駅伝、大阪マラソン2024 NHK ラジオ出演 第100回東京箱根間往復大学駅伝競走 (往路、復路) NHK-BS1テレビ出演 「熱戦凝縮!全国高校駅伝2023」、「熱戦凝縮! 大阪マラソン」等
2024年1月	株式会社 TBS テレビ	テレビ出演 ニューイヤー駅伝2024
2024年2月	NPO 法人熊野健康スポーツ 振興会	第49回 熊野駅伝大会 (プレゼンターとして)

見る楽しみの中でも、競技の背後にある様々なストーリーを伝える取り組みが以下である。

2023年9月	THE ANSWER スポーツ 文化・育成&総合ニュー スサイト	1年生は「なぜ丸刈り?」マラソン元五輪代表・尾方剛、疑問抱くも 山梨学院大進学を選んだ理由 箱根駅伝V&区間賞後に生じた異変 元五輪代表・尾方剛、どん底を 味わった全身脱毛症との闘い マラソン挑戦は「世界でメダルを獲得するため」不屈のランナー尾方剛、世 界陸上3位に生きた“悔しさ” 関東の強豪校は「実業団選手に近い」中四国駅伝王者を指導、尾方剛が 指摘する地方大学との差 箱根駅伝予選会に「不参加」の理由 中四国王者監督が語る“全国化” への本音「たった1年では…」
2023年12月	株式会社文藝春秋	Number 箱根駅伝 100回の名勝負。走れなかったエースたち pp.62-63
2023年12月	日本テレビ放送網株式会社	箱根駅伝 番組公式サイトメッセージ～私と箱根駅伝～栄光と挫折、そ して復活 尾方剛
2024年1月	株式会社ベースボール・マ ガジン社	第100回箱根駅伝速報号「私が見た箱根駅伝 2024」 pp.37

## Ⅱ 研究所委任事業

### 広島経済大学経済学会

#### (1) 『論集』の刊行

『広島経済大学経済研究論集』、『広島経済大学研究論集』共に計画どおり刊行した。

#### 『広島経済大学経済研究論集』 第46巻 第1号 (2023年8月)

論 説	上野 信行、得津 康義、丹羽 啓一	内示プロセスにおける計画非継続性事象の基礎的検討 —内示更新を考慮した需要モデルの提案と在庫の分散の上界—
研究ノート	中川 栄治 松川 佳洋	『国富論』第1篇第5章での異時点間価値比較のための尺度 食文化の海外展開 —オタフクソースのマレーシア進出の事例から—
資 料	細井 謙一	広島お好み焼き関係年表

#### 『広島経済大学研究論集』 第46巻 第1号 (2023年8月)

論 説	内海 和雄 餅川 正雄	部活動の地域移行を考える 日本の相続税法における税額控除制度に関する研究 —相次相続控除と配偶者に対する税額軽減について—
研究ノート	宮地 英和	産学連携による布地を活用したブックカバーの開発
資 料	竹林 栄治	Schicksal eines Geleitflugzeugträgers der japanischen Marine im Zweiten Weltkrieg und seine Beziehung zu Hiroshima — Begleitend zur Exkursion des von einem deutschen Passagierschiff zum Geleitflugzeugträger umgebauten Geleitflugzeugträgers <i>Shinyo</i> und der Militärhafenstadt Kure, Hiroshima — 第二次大戦時における1隻の日本海軍特設空母の運命と広島との関係 —ドイツ商船改造空母神鷹と呉軍港を実地見学するための手引き—
研究集会報告	坂水 貴司	室町時代における漢語「父母」の語形

#### 『広島経済大学経済研究論集』 第46巻 第2号 西脇 廣治教授 退任記念号 (2023年11月)

	西脇 廣治教授	写真・略歴・業績
	重本 洋一	西脇廣治先生のご退任によせて
論 説	中川 栄治 棚橋 慶太	アダム・スミスの穀物尺度 J-REIT (日本型不動産投資信託) における実体的利益調整に関する一考察
研究集会報告	胡 怡	共創サービスの失敗と顧客反応との関係性

#### 『広島経済大学研究論集』 第46巻 第2号 (2023年11月)

論 説	青谷 章弘、齋藤 玲、後藤 心平	いじめアンケート調査に対する回答者の態度に関する研究 —ビッグファイブを踏まえた調査運用への一提案—
	石川 佳浩	日本人英語学習者の第一言語へ第二言語が及ぼす影響 —初学者レベルの学習者を対象とした検討—

#### 『広島経済大学経済研究論集』 第46巻 第3号 宜名眞 勇教授 退任記念号 (2024年3月)

	宜名眞 勇教授	写真・略歴・業績
	得津 康義	宜名眞勇先生のご退任によせて
依 頼 論 文	Tee Kian Heng 小野 宏	市町村産業連関分析—広島県広島市を例として— 地方税事務の広域化・共同化の効果 — Difference in Differences による分析—

論 説	得津 康義	欠損値の処理方法の違いによる予測精度の比較
	細井 謙一	広島お好み焼きのバリエーション・チェーンに関する試論的考察 —構造、機能、機能代替—
	福田 正太郎	無申告加算税における不適用制度の研究 —主張・立証責任の観点から—
研究ノート	岡本 康昭	発展する企業の力強い文化—戦略と組織の視点から—

経済研究論集 第46巻 総目次

『広島経済大学研究論集』 第46巻 第3号 (2024年3月)

論 説	宮岡 弥生、時本 真吾、時本 楠緒子	eラーニングにおける他者の存在感の効果 —社会的性格特性との関連—
	坂水 貴司	佼成図書館蔵『首楞嚴経』所載「首楞嚴神呪」の字音点
研究ノート	内海 和雄	イングランドの部活動 (1/2) —誕生から「学校スポーツパートナーシップ」へ—
研究論集	第46巻 総目次	

※論集のバックナンバーは、広島経済大学リポジトリに掲載し、インターネット上で公開しています。

広島経済大学大学紹介—研究 <https://www.hue.ac.jp/about/research/index.html>  
 広島経済大学リポジトリ <https://hue.repo.nii.ac.jp/>



## (2) 『磐石』の刊行

本学の学部学生の卒業記念誌として『磐石』（第47号）を刊行し、卒業生全員に配布した。『磐石』の内容は、ゼミ毎の卒業論文題目、ゼミ教員の学生へのコメント及びゼミ生の卒業メッセージ、優秀卒業論文で構成している。

### 『磐石』第47号 (2024年3月) 優秀卒業論文

- 神原 颯真 (経営学部 経営学科・瀬戸 正則ゼミ)  
「プロ野球観戦における動機に関する一考察—観戦方法と体験に着目して—」
- 渡邊 丞 (経営学部 経営学科・細井 謙一ゼミ)  
「購買意思決定に憧憬性が与える影響に関する実証研究：広告への有名人起用の二面性」
- 横目 窓希 (経済学部 経済学科・前馬 優策ゼミ)  
「放課後等デイサービスにおける療育方法の効果と課題」

## (3) 研究集会の開催

第1回 2023年6月29日 (木) 於：明德館プレゼンテーションコート  
 司 会：田中 泉 (教養教育部 教授)  
 報 告：迫田 奈美子 (教養教育部 准教授)  
 テーマ：「広島ハワイ文化交流プロジェクト参加大学生向け英語タスク設計のためのニーズ分析」

第2回 2023年11月30日 (木) 於：明德館プレゼンテーションコート  
 司 会：角 裕太 (経営学部 経営学科 准教授)  
 報 告：福田 正太郎 (経営学部 経営学科 准教授)  
 テーマ：「確定申告が遅れた場合のペナルティ制度」

第3回 2024年2月16日（金） 於：明德館プレゼンテーションコート

司 会：坂水 貴司（教養教育部 助教）

報 告：阿部 純（メディアビジネス学部 メディアビジネス学科 准教授）

テーマ：「倫理的消費の展開：2010年代以降のライフスタイル雑誌分析から」

※研究集会の報告要旨は、広島経済大学リポジトリに掲載されます。



第1回研究集会

報告者：迫田 奈美子 准教授



第2回研究集会

報告者：福田 正太郎 准教授



第3回研究集会

報告者：阿部 純 准教授

#### (4) その他

##### 学生会員への研究支援

2022年6月、学会等で発表した経済学会に在籍する学生に奨励金（1人当たり10,000円）を給付する「広島経済大学経済学会学生研究奨励金給付内規」を制定し、「第32回人工知能学会金融情報学研究会」で発表したビジネス情報学科に在籍する4年生1人に給付した。

また、本学が毎年実施している「学生懸賞論文」に応募した学生29人に参加賞として図書カード（1,000円分）を贈呈した。

### Ⅲ 産学官連携・域学連携

#### 1 企業・行政などとの包括連携協定一覧

連携先	協定締結日	内容等
広島銀行	2005年12月20日	・ 地域活性化に関する業務協力 ・ ベンチャー・ビジネスに対する投資・融資支援等 ・ 技術相談や共同研究等に関する業務協力
安佐南区役所	2008年12月5日	・ まちづくりの推進、教育・文化・スポーツの振興及び健康づくり推進
広島市信用組合 社団法人全国信用組合中央協会	2009年3月26日	・ 地域経済活性化に関する業務協力 ・ 産学連携にかかる具体的な方策 ・ 大学生の教育支援等
一般財団法人ひろぎん経済研究所	2017年3月24日	・ 地域経済活性化に関する連携協力 ・ 産業活性化に関する連携協力 ・ 共同研究等に関する連携協力 ・ 大学生の教育支援と人的交流の促進等
公益財団法人中国地域創造研究センター	2017年3月24日	・ 地域経済活性化に関する連携協力 ・ 産業活性化に関する連携協力 ・ 共同研究等に関する連携協力 ・ 大学生の教育支援と人的交流の促進等
新庄みそ株式会社	2018年6月20日	・ 地域経済活性化に関する連携協力 ・ 産業活性化に関する連携協力 ・ 共同研究等に関する連携協力 ・ 大学生の教育支援と人的交流の促進等
オタフクソース株式会社	2019年11月25日	・ 地域経済活性化に関する連携協力 ・ 産業活性化に関する連携協力 ・ 共同研究等に関する連携協力 ・ 大学生の教育支援と人的交流の促進等
一般財団法人お好み焼アカデミー	2019年12月17日	・ 地域経済活性化に関する連携協力 ・ 産業活性化に関する連携協力 ・ 共同研究等に関する連携協力 ・ 大学生の教育支援と人的交流の促進等
株式会社サンフレッチェ広島	2021年1月31日	・ 次代を担う若者の教育・人材育成に関すること ・ スポーツ分野の学術研究に関すること ・ スポーツ普及及び振興に関すること ・ 地域の産業の振興及び地域の活性化に関すること ・ その他相互に連携することが必要と認められる事項に関すること
広島市安佐南区社会福祉協議会	2023年8月23日	・ ボランティア活動の推進 ・ 地域活動やまちづくりの推進 ・ 大学生の人材育成に関する分野等

#### 2 2023年度産学官連携・域学連携に関する活動状況一覧

##### 【本学との包括連携協定に基づいた活動】

教員名	連携先	実施時期	テーマ・内容等
細井 謙一	オタフクソース株式会社	2023年9月	オタフクソース×細井ゼミ マーケティング研究会
藤原 久嗣	広島市安佐南区社会福祉協議会	2024年2月	沼田憩いの家にて、ゼミ学生による高齢者向けのスマホ講座を開催

##### 【教員の地域等貢献活動】※協定・覚書等が締結されて行われた活動

教員名	連携先	実施時期	テーマ・内容等
嵐森 裕暢	広島市教育委員会 (広島市立美鈴が丘高等学校)	2023年5月～ 2024年3月	「総合的な探究の時間」を中心にした高校カリキュラムのコーディネート

## IV その他

### 1 委員会

#### 第1回地域経済研究所委員会

6月1日(木) / 研修室2

議題 1. 経済学会評議委員会(6/8)提案資料について

- (1) 2022(R4)年度事業・決算報告及び監査報告について
- (2) 2023(R5)年度事業計画(案)及び予算(案)について
- (3) 『経済研究論集』・『研究論集』の統合及び『広島経済大学論集(仮称)』の新規刊行について
- (4) 広島経済大学経済学会における学生会員年会費の減額について
- (5) 経済学会関係規程等の改正(案)について

2. 『経済研究論集』第46巻第1号並びに『研究論集』第46巻第1号の編集について
3. 2023(R5)年度地域経済研究所委員会開催予定について

#### 4. その他

- (1) 広島経済大学研究双書の刊行に関する要項の改正(案)について

報告 1. 2022(R4)年度地域経済研究所の事業報告及び決算について

2. 2023(R5)年度地域経済研究所の事業計画及び予算について
3. 経済学会研究集会幹事について
4. 2024年度からの紀要リポジトリ一本化に関する検討課題について

#### 広島経済大学経済学会評議員会

6月8日(木) / 大会議室

議題 1. 2022(令和4)年度事業・決算報告及び監査報告について

2. 2023(令和5)年度事業計画(案)及び予算(案)について
3. 2024年度からの紀要リポジトリ一本化に関する検討課題について
4. 『経済研究論集』・『研究論集』の統合及び『広島経済大学論集(仮称)』の新規刊行について

5. 広島経済大学経済学会における学生会員年会費の減額について

6. 経済学会関係規程等の改正(案)について

#### 研究倫理委員会

6月19日(月) / 学長室

議題 1. 2023年度研究倫理及びコンプライアンス研修会の開催について

#### 第2回地域経済研究所委員会

9月13日(水) / 研修室2

議題 1. 『経済研究論集』第46巻第2号(西脇廣治名誉教授退任記念号)並びに『研究論集』第46巻第2号の編集について

2. 新論集(紀要)の名称について
3. 2023年度『磐石』の刊行スケジュールについて
4. その他

- (1) 『磐石』の電子化について

報告 1. 経済学会研究集会について

#### 第3回地域経済研究所委員会

2024年1月18日(木) / 研修室1

議題 1. 『経済研究論集』第46巻第3号(宜名真勇名誉教授退任記念号)並びに『研究論集』第46巻第3号の編集について

報告 1. 『経済研究論集第45巻第3号』掲載研究ノートの転載について

2. 『磐石』優秀卒業論文審査について
3. 経済学会研究集会について
4. その他

- (1) 『広島経済大学研究双書第46冊』の審査について

#### 個人研究費審査委員会

2024年2月14日(水) / 研修室2

議題 1. 2024年度個人研究費の増減について

#### 臨時地域経済研究所委員会

2024年3月8日(金) / 039教室

議題 1. 「退任記念号刊行について(申し合わせ)」の改正案について

---

## 2 業務日誌

### 〔4月〕

- 10日（月） 役員啓発活動①「広島経済大学におけるコンプライアンス教育・啓発活動実施状況及び実施計画等について」理事会にて報告・意見交換  
教職員啓発活動①「2023年度公的研究費の不正使用防止について」パンフレット配信

### 〔5月〕

- 8日（月）、9日（火）  
経済学会会計監査

- 23日（火）  
～7月7日（金）  
2023年度科学研究費執行説明会

### 〔6月〕

- 1日（木） 第1回地域経済研究所委員会  
8日（木） 経済学会評議員会  
19日（月） 研究倫理委員会  
29日（木） 経済学会第1回研究集会 報告 迫田 奈美子 准教授  
30日（金）  
～7月28日（金）  
科学研究費助成事業研究データの保存状況の確認

### 〔7月〕

- 4日（火）  
～28日（金）  
科学研究費助成事業内部監査、リスクアプローチ監査  
13日（木） 2023年度研究倫理及びコンプライアンス研修会  
24日（月）  
～8月4日（金）  
2024年度科学研究費助成事業応募説明会  
31日（月） 『地域経済研究所年報』第25号（2022年度）刊行・配布

### 〔8月〕

- 9日（水） 『経済研究論集』並びに『研究論集』第46巻第1号の刊行・配布  
28日（月） 教職員啓発活動②「2023年度研究倫理及びコンプライアンス研修会の受講状況及び理解度チェックの結果について」メール配信

### 〔9月〕

- 11日（月） 役員啓発活動②「2023年度研究倫理及びコンプライアンス研修会の受講状況及び理解度チェックの結果について」理事会にて報告・意見交換  
13日（水） 第2回地域経済研究所委員会

### 〔10月〕

- 16日（月） 役員啓発活動③「2023年度内部監査及びリスクアプローチ監査の実施結果について」理事会にて報告・意見交換

### 〔11月〕

- 1日（水）  
～12月31日（日）  
研究費不正使用防止強化月間 教職員サイトに掲載・ポスター掲示

- 
- 9日(木) 教職員啓発活動③「広経大研究不正防止 News Letter」発行
- 30日(木) 経済学会第2回研究集会 報告 福田 正太郎 准教授  
『経済研究論集』第46巻第2号(西脇廣治教授 退任記念号)並びに『研究論集』第46巻第2号の刊行・配布
- 〔1月〕
- 18日(木) 第3回地域経済研究所委員会
- 〔2月〕
- 9日(金) 『磐石』掲載優秀卒業論文審査会議
- 14日(水) 個人研究費審査委員会
- 16日(金) 経済学会第3回研究集会 報告 阿部 純 准教授
- 〔3月〕
- 8日(金) 臨時地域経済研究所委員会
- 11日(月) 役員啓発活動④「2023年度公的研究費不正防止計画実施状況報告及び2024年度公的研究費不正防止計画案について」理事会にて審議・意見交換
- 19日(火) 『磐石』第47号の刊行・配布(学位記授与式)
- 22日(金) 教職員啓発活動④「2024年度公的研究費不正防止計画について」メール配信
- 31日(日) 『経済研究論集』第46巻第3号(宜名眞勇教授 退任記念号)並びに『研究論集』第46巻第3号の刊行・配布



### 3 地域経済研究所 収集雑誌・資料等受入リスト

※大学紀要は図書館にて所蔵しております。

#### 参考図書（助成関係資料・地域関連図書等）

書 籍 名	発 行 所
研究者のための助成金応募ガイド	公益財団法人助成財団センター
広島企業年鑑	株式会社広島経済研究所
地域経済総覧	東洋経済新報社
APA 論文作成マニュアル	(株)医学書院
APA 論文マニュアル（英語版）	American Psychological Association
学術論文の作法	成文堂

#### 地域資料

雑 誌 名	発 行 所
広島市統計書	広島市企画総務局企画調整部政策企画課
呉市統計書	呉市企画部情報統計課統計グループ
島根県統計書	島根県統計協会
島根県勢要覧	島根県統計協会
島根の人口移動と推計人口	島根県政策企画局統計調査課
島根県県民経済計算	島根県政策企画局統計調査課
島根県市町村民経済計算	島根県政策企画局統計調査課
月刊 島根の統計	島根県政策企画局統計調査課
鳥取県勢要覧	鳥取県令和新時代創造本部統計課
鳥取県統計年鑑	鳥取県令和新時代創造本部統計課
100の指標からみた鳥取県	鳥取県令和新時代創造本部統計課
山口県統計年鑑	山口県統計協会
山口県勢要覧	山口県統計協会
県勢やまぐち	山口県統計協会
愛媛県統計年鑑	愛媛県統計協会
愛媛県市町別主要統計指標 統計からみた市町のすがた	愛媛県統計協会
統計からみた愛媛県の地位	愛媛県統計協会
えひめの統計	愛媛県統計協会
統計でみる愛媛のすがた	愛媛県統計協会
香川県統計年鑑	香川県統計協会
100の指標からみた香川	香川県統計協会
香川のすがた	一般財団法人百十四経済研究所
図説九州経済	公益財団法人九州経済調査協会
九州経済白書	公益財団法人九州経済調査協会
農林漁業金融統計	農林中央金庫
中国地域白書	公益財団法人中国地域創造研究センター
中国地域経済の概況	公益財団法人中国地域創造研究センター
活動報告書	公益財団法人中国地域創造研究センター

一般雑誌・金融関係雑誌

雑 誌 名	発 行 所
季刊 碧い風	中国電力株式会社地域共創本部
あすの九州・山口	一般社団法人九州経済連合会
調査月報	一般財団法人百十四経済研究所
調査月報 IRC Monthly	株式会社いよぎん地域経済研究センター
中国経済連合会会報	一般社団法人中国経済連合会
季刊 中国創研	公益財団法人中国地域創造研究センター
芸備地方史研究	芸備地方史研究会 (広島大学文学部日本史学研究室内)
Hiroshima 広島商工会議所所報	広島商工会議所
広島経済レポート	株式会社広島経済研究所
環境ジャーナル 中国地方版	有限会社スペースアルド
カレントひろしま	株式会社広島銀行法人企画部
マンスリー山陰経済	株式会社山陰合同銀行地域振興部産業調査グループ
MONTHLY REPORT マンスリーレポート	一般財団法人岡山経済研究所
山口県地方史研究	山口県地方史学会
世界の農業農村開発	一般財団法人日本水土総合研究所
地域開発	一般財団法人日本地域開発センター
地域経済学研究	日本地域経済学会
地域研究交流	地方シンクタンク協議会
地理科学	地理科学学会 (広島大学文学部地理学教室内)
大学評価・学位研究	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
季刊 道路新産業 Traffic & business	一般財団法人道路新産業開発機構
同友会景況調査報告 (DOR)	中小企業家同友会全国協議会 企業環境研究センター
東アジアへの視点 北九州発アジア情報	公益財団法人アジア成長研究所
IDE 現代の高等教育	IDE 大学協会
JRI レビュー	株式会社日本総合研究所
計画行政	一般社団法人日本計画行政学会
企業環境研究年報	企業環境研究センター
金融研究	日本銀行金融研究所
日本経済研究	公益社団法人日本経済研究センター
日経グローバル	日本経済新聞社
生命保険経営	生命保険経営学会
瀬戸内海	公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
信託	一般社団法人信託協会
信託研究奨励金論集	一般社団法人信託協会
証券経済研究	公益財団法人日本証券経済研究所
商工金融	一般財団法人商工総合研究所
ゆうちょ資産研究 研究助成論文集	一般財団法人ゆうちょ財団ゆうちょ資産研究センター

雑 誌 名	発 行 所
調査	株式会社日本政策投資銀行
調査ニュース	株式会社北海道銀行
DBJ MonthlyOverview	株式会社日本政策投資銀行
マンスリー・レビュー	株式会社三井住友銀行
日本公庫総研レポート	株式会社日本政策金融公庫 総合研究所
日本政策金融公庫調査月報：中小企業の今とこれから	株式会社日本政策金融公庫 総合研究所
日本政策金融公庫論集	株式会社日本政策金融公庫 総合研究所
農林金融	農林中央金庫

## 4 既刊行物

### (1) 広島経済大学研究双書

巻号	著者名	タイトル・刊行年 ※出版社刊行双書の場合は出版社名を記載
第1冊	伊藤 迪	『現代日本における思想の困難性』 1982
第2冊	辻岡 正己	『由利財政の研究—明治維新と由利財政—』 1984
第3冊	森井 昭顕	『国際収支調整に関する政策的評価』 1985
第4冊	吉澤 昌恭	『市場機構の意味』 1985
第5冊	北村 由之	『独占的競争理論の研究—マーシャル的産業論の立場からする価値論体系化の試み—(上)』 1990
第6冊	北村 由之	『独占的競争理論の研究—マーシャル的産業論の立場からする価値論体系化の試み—(下)』 1990
第7冊	木本 欽吾	『若いハイネ—ハイネ伝のために—』 1990
第8冊	百々 和	『中国型経済システムの形成』 1991
第9冊	狭田 喜義	『地域経済の発展と雇用・労働問題(上)』 1991
第10冊	狭田 喜義	『地域経済の発展と雇用・労働問題(下)』 1992
第11冊	三上 昭荘	『戦前における地理学・地理教育に関する研究—西亀正夫の業績を通して—』 1993
第12冊	田辺 洋子	『チャールズ・デイケンズ作「大いなる遺産」研究』 1994
第13冊	新川 英明	『滅びゆく感潮河川の貝類』 1994
第14冊	中川 栄治	『「アダム・スミスの価値尺度論」に関する海外における諸研究—19世紀末から1970年代末—(上)』 1995
第15冊	中川 栄治	『「アダム・スミスの価値尺度論」に関する海外における諸研究—19世紀末から1970年代末—(下)』 1995
第16冊	藤井 千之助	『歴史教育研究序説』 1997
第17冊	三上 昭荘	『広島栽培地域川内地区の経済地理学的研究』 1998
第18冊	社会と共生研究会編	『社会と共生—国際経済社会における共存共生システムに関する総合的考察—』 2000
第19冊	George R. Harada ; Tomiyuki Ogawa	『The Changing Japanese Society And The Law』 2000
第20冊	大田 孝太郎 編著	『家族と現代』 2001
第21冊	手島 勝彦	『近代企業における賃金管理制度の研究』 2002
第22冊	細井 謙一	『営業・販売組織における適応過程の研究』 2002
第23冊	山口 裕	『ドイツの歴史小説』 三修社 2003
第24冊	溝口 敏行	『日本の統計調査の進化—20世紀における調査の変貌—』 溪水社 2003
第25冊	片岡 幸雄・鄭 海東	『中国対外経済論』 溪水社 2004
第26冊	高石 哲弥・大岩 雅子・ 濱 愼一・中村 純	『WebClass による e-Learning の試み』 2006
第27冊	細井 謙一・竹村 正明	『営業生産性尺度の開発』 2006
第28冊	末広 菜穂子・石田 美清・ 竹林 栄治	『家庭生活の世代間変化と生活文化の継承性—子ども時代の生活に関する中四国地方での調査報告—』 2007
第29冊	池田 信寛	『カード・マーケティング』 2007
第30冊	柳川 和優	『高齢者の歩行動作特性』 2008
第31冊	山内 昌斗	『日英関係経営史—英国企業の現地経営とネットワーク形成—』 溪水社 2010
第32冊	増田 正勝	『ドイツ経営パートナーシャフト史』 森山書店 2010

巻号	著者名	タイトル・刊行年 ※出版社刊行双書の場合は出版社名を記載
第33冊	Roger L.Reinoos; Sakoda,Namiko; J.A.S.Wild; Matsumiya,Nagako	『How Much CALL and How Much HALL? An Inquiry into the Computer-Learner-Teacher Nexus in Foreign Language Learning : With Special Reference to Teacher Interventions in a CALL Application at Hiroshima University of Economics』 2010
第34冊	永田 靖	『キャッシュ・フロー会計情報論—制度的背景と分析手法—』 中央経済社 2010
第35冊	松井 一洋・長谷川 泰志・古本 泊	『こちらはFMハムスター—地域コミュニティの未来を担う小さな一歩—』 ジャパンインターナショナル総合研究所 2011
第36冊	細井 謙一・山内 昌斗・永田 靖・神尾 陽一・福田 覚	『ビジネス教育における新手法の開発—「日本の18歳にふさわしいビジネス教育の入口」の探究—』 2011
第37冊	中村 克洋	『言葉力により逆発想のスヌービジネスにおける逆転の発想を生み出す言葉の力に関する研究—』 2011
第38冊	内海 和雄	『オリンピックと平和—課題と方法—』 不昧堂出版 2012
第39冊	前川 功一・得津 康義 編著	『金融時系列分析の理論と応用』 2012
第40冊	片岡 幸雄	『中国対外経済貿易体制史(上)』 溪水社 2013
第41冊	武藤 清吾	『芥川龍之介の童話—神秘と自己像幻視の物語—』 翰林書房 2014
第42冊	内海 和雄	『スポーツと人権・福祉—「スポーツ基本法」の処方箋—』 創文企画 2015
第43冊	餅川 正雄	『キャリア教育と進路指導に関する研究』 2016
第44冊	福居 信幸・前川 功一・増原 義剛・野北 晴子・糠谷 英輝・小笠原 礼以・小松 正昭	『東アジアの経済成長の持続可能性について』 2016
第45冊	大田 孝太郎	『ヘーゲルの媒介思想』 溪水社 2018

## (2) 広島経済大学地域経済研究所報告書

巻号	研究者名	タイトル・刊行年
(第1号)	三須 祐介・宮岡 弥生・迫田 奈美子	『第2言語としての日本語、英語、中国語教育教材の汎用化に関する研究』 2007 (共同研究04-A)
(第2号)	細井 謙一・小西 修一・竹村 正明	『ホロン型営業と営業活動の生産性』 2009 (共同研究05-B)
(第3号)	渡辺 昌彦・村山 秀次郎・王 怡人	『ベンチャー企業の成長におけるマーケティングの役割についての実証研究』 2009 (共同研究05-C)
(第4号)	村山 秀次郎・伊東 哲夫・奥原 浩之	『リスク・マネジメントを支援するテキストデータからの課題発見—対応策策定プロセスの研究と実証研究—』 2010 (共同研究06-A)
(第5号)	丹羽 啓一・片桐 英樹・久保 大支	『不確実かつ曖昧な環境下での2レベル計画モデルの提案と進化計算に基づく解法の構築』 2012 (共同研究09-A)
(第6号)	松井 一洋・堂本 絵理	『FMハムスターによる地域コミュニケーションの変化と展望』 2013 (共同研究11-B)
(第7号)	証本 伸悦・永田 靖・松本 耕二・山本 公平・渡辺 泰弘	『スポーツを活用した地方活性化に関する考察』 2014 (共同研究11-A)
(第8号)	J.A.S Wild・Namiko Sakoda	『The Development and Applications of the HUE Language Proficiency (HUELP) Database』 2015 (共同研究12-B)
(第9号)	志々田 まなみ・三山 緑・田中 泉・神田 義浩・胤森 裕暢・櫻田 裕美子	『学習指導技量の評定結果を活用した教育実習指導に関する研究』 2015 (共同研究12-C)

巻号	研究者名	タイトル・刊行年
(第10号)	内海 和雄・藤口 光紀・ 渡辺 勇一・中嶋 則夫・ 榎本 伸悦・松本 耕二・ 岡安 功・渡辺 泰弘	『プロ・スポーツクラブ(球団)の地域密着の総合的研究』 2016 (共同研究12-A)
(第11号)	重野 裕美・土屋 祐子・ 白田 理人	『奄美大島北部方言の言語ドキュメンテーション・アーカイビング・言語資料公開にむけて』 2020 (共同研究16-A)
第12号	(細井 謙一)	『お好み焼き業界におけるコロナ禍、物価高の影響に関する実態調査報告書』 2023

### (3) Discussion Papers

巻号	研究者名	タイトル・刊行年
No. 1	Yukio KANEKO	Changes of Industrial Structure and Employment in the Course of Industrialization in Developing Economy : A Case Study of Indonesia 1983
No. 2	Yukio KANEKO	An Empirical Study on Projecting and Forecasting the Input Coefficient Matrix in Leontief Model 1983
No. 3	Yukio KANEKO	The Structure of Economic Development Process: Input-Output Analysis of the Indonesian Economy 1984
No. 4	Yukio KANEKO	Aspects of Economic Development of the Indonesian Economy 1985
No. 5	Yukio KANEKO	International Input-Output Analysis of Japan, United States and ASEAN Countries 1985
No. 6	Yukio KANEKO	International Comparison of Industrialization Process 1985
No. 7	Yukio KANEKO・ H.Tampubolon・ Eiichi YANAGI	Domestic Production and Factor Content of International Trade in Indonesia 1986
No. 8	Yukio KANEKO・ Eiichi YANAGI	Regionalization of Input-Output Model with Non-Survey Technique 1986
No. 9	Yukio KANEKO・ Koh'ichi NIDAIRA	Towards the Basic Human Needs in Relation to Public Health and Nutrition 1986
No.10	Yukio KANEKO	An Empirical Study on Non-Survey Forecasting of the Input Coefficient Matrix in Leontief Model 1986
No.11	Yukio KANEKO・ Eiichi YANAGI Koh'ichi NIDAIRA	International Comparison of Export Competitiveness for Industrial Products in the East Asian Countries: An Application of Product Cycle Hypothesis to Indonesia 1987
No.12	Koh'ichi NIDAIRA・ Yukio KANEKO	Industrial Adjustment after Oil Crisis in Japan 1987
No.13	Eiichi YANAGI	Market Segmentation approach of the Indonesian Export: International Comparison with Thailand 1987
No.14	Eiichi YANAGI	Empirical Analysis of Import Substitution and Promotion in the Indonesian Industries, 1971-1985. 1987
No.15	Yukio KANEKO・ Koh'ichi NIDAIRA	Consistent Inter-Industry Forecasting Model of Indonesia: Basic Structure of the Model INFORMIN 1987
No.16	Yukio KANEKO	Seidel Iterative Method for Solving Dynamic Input-Output Model in Developing Economies 1987
No.17	Yukio KANEKO・ Koh'ichi NIDAIRA	Semi-Dynamic Input-Output Model for the Model INFORMIN 1987
No.18	Yukio KANEKO・ Eiichi YANAGI	International Comparison of Export Competitiveness for Industrial Products in the East Asian Countries 1987

巻号	研究者名	タイトル・刊行年
No.19	Yukio KANEKO・ Koh'ichi NIDAIRA・ Norihisa SAKURAI	Non-negativity and Stability of the Dynamic Leontief Model 1988
No.20	Yukio KANEKO	Dual Structure of the Indonesian Economy: An Application of Input-Output Table by Size of Firm 1989
No.21	金子 敬生	活力ある社会実現へ向けての税制改革のあり方―「税制改革」に対する意見― 1988
No.22	Julian Luthan	Recent Development of Investment in Indonesia 1991
No.23	細井 謙一	マーケティング論における交換概念と関係性志向マーケティング 1996
No.24	細井 謙一・南 知恵子	Business to Business Marketing における営業の役割 1996
No.25	谷口 真美	新日本型経営 1998
No.26	谷口 真美	女性管理者に関する調査結果報告書 1998
No.27	谷口 真美	外資系企業における女性雇用と能力主義管理―P&Gのケース― 1998
No.28	谷口 真美	組織コミットメントと昇進に関する調査結果報告書 1999
No.29	細井 謙一	生命保険業における営業要員の知識構造と販売成果―マーケティング戦略の実行問題としてのセールス・マネジメント― 2000
No.30	溝口 敏行・鈴木 紫	クラスター分析による地域別成長パターンの分析―日本と中国への応用― 2000
No.31	佐々木 一郎	危険細分化が保険料率体系の公平性に与える効果に関する分析 2001
No.32	佐々木 一郎	年金の損得計算妥当性と逆選択―アンケート調査に基づく展望論文― 2002
No.33	栗濱 竜一郎	利用者の視点に立脚した財務諸表監査の展開 2002
No.34	佐々木 一郎	年金の損得計算と逆選択 2002
No.35	栗濱 竜一郎	Perspective of Financial Statement Auditing based on Users' Viewpoints: Changing from the traditional to a new theoretical framework of auditing 2003
No.36	佐々木 一郎	国民年金未加入行動に影響する要因の分析―大学生対象のアンケート調査から― 2004
No.37	佐々木 一郎	国民年金受容の条件 2005
No.38	細井 謙一	営業プロセス管理とどう向きあうか―SFAによる営業ドミナント・プロセス設定の功罪― 2005
No.39	Hosoi Ken-ichi・ Yi-jen Wang・ Masaaki Takemura	Is a good relationship really good? : Reappraisal of Roles of Industrial Distributor 2006
No.40	Hosoi Ken-ichi・ Yi-jen Wang・ Masaaki Takemura・ Kazuki Ota	Resource-Application Matrix of Business Marketing in Japan: Network Perspective Revisited 2006
No.41	楊 義申	中国建設業の統計調査 2007
No.42	杉田 武志	17世紀前半ロンドン東インド会社における監査担当役による監査の実態 2011
No.43	細井 謙一・中川 義之	親子間の消費に関する価値観共有研究の再考―山岸(1999)を手がかりに― 2011
No.44	細井 謙一・中川 義之	Family policy を念頭に置いた消費者の消費選択と社会的相互作用の関係に関わる調査―「役割取得」の視点から― 2011

巻号	研究者名	タイトル・刊行年
No.45	細井 謙一・中川 義之	Family policy を想定した消費者の消費に対する選択根拠に関する調査—「特定の他者への配慮」の視点から— 2011
No.46	櫻井 雅充・浦野 充洋	製造業 Y 社における給与計算業務改革—ERP パッケージ導入がもたらした仕事と役割の変容— 2012
No.47	櫻井 雅充・浦野 充洋	製造業 Y 社における各種プロジェクトの設立—プロジェクト活動を通じた人材育成— 2013

#### (4) モノグラフ

巻号	著者名	タイトル・刊行年
No. 1	片岡 幸雄	『中国における対外貿易論の新展開』 1984

#### (5) 広島経済大学地域開発研究所研究報告

巻号	タイトル・刊行年
No. 1	広島県における過疎地域に関する調査研究 1968
No. 2	広島県における芸北過疎地域調査と開発問題に関する研究 1969
No. 3	広島県の挙家離農地帯における農業再開調査—広島県佐伯郡佐伯町の場合— 1970

#### (6) 地域開発研究資料

巻号	研究者名	タイトル・刊行年
No. 1	日隈 健壬	広島県における酒造業の経済構造 1972
No. 2	厚母 浩	中国縦貫自動車道沿線地域の経済構造—グラビイーディ・モデルの適用— 1972
No. 3	—	中国縦貫自動車道沿線地域における住民の意識構造—農村地域工業導入アンケート調査をふまえて— 1972
No. 4	—	備北地域における協業組織の実態調査 1973
No. 5	—	「市町村出版物」資料目録—広島・岡山・山口・島根・鳥取—昭和48年5月現在 1973
No. 6*	—	「市町村出版物」資料目録—広島・岡山・山口・島根・鳥取—昭和50年4月現在 1975

\* 研究所改組により、正しくは「地域経済研究所資料 No.6」

#### (7) 資料目録

タイトル・刊行年
「市町村刊行物」目録—中国五県—昭和53年12月現在 1979
地域資料目録「正」昭和56年12月現在 1981
「地域資料目録」追録 1981年12月～1984年12月受入 1985





2023 年度地域経済研究所委員会

委員長 瀬戸 正則 (経営学部 経営学科)  
委員 平下 義記 (経済学部 経済学科)  
胡 怡 (経営学部 経営学科)  
永田 智章 (経営学部 スポーツ経営学科)  
石野 亜耶 (メディアビジネス学部 ビジネス情報学科)  
宮地 英和 (メディアビジネス学部 メディアビジネス学科)  
高石 哲弥 (教養教育部)  
本岡亜沙子 (教養教育部)

事務部

所 長 中嶋 則夫 (兼務)  
部 長 岡田 浩典 (兼務)  
課 長 平本 和美  
派遣職員 梅地 由美

広島経済大学地域経済研究所年報

第 26 号

印刷 2024 年7月 31 日

発行 2024 年7月 31 日

編集発行 広島経済大学地域経済研究所  
〒731-0192  
広島市安佐南区祇園五丁目37番1号  
TEL 082-871-1000(代)

印刷所 株式会社ニシキプリント  
〒733-0833  
広島市西区商工センター七丁目五番33号  
TEL 082-277-6954